

パワフルフローリングのお取り扱いについて (施工前に必ずお読みください)

使用上のご注意

木質床材は天然の素材を使用しておりますので、水分の吸収による伸び、水分の放出による縮みを一年中繰り返します。また、燃える素材でもあり、鉄などと違って固く重い物を乗せれば傷がつかます。多湿な場所では、腐れや虫による食害が生じます。つきましては、施工方法や使用法を正しくご理解いただくことが大切です。特に、水分の吸放出による伸び縮みで起こる反り・隙間を少なくするために、下記のことにご注意ください。なお、床暖房用のフローリングの施工にあたっては、必ず床暖房機材のメーカーにご相談の上、施工をされるようお願いします。

- モルタル下地への施工の場合、養生期間を十分取ってください。(モルタル厚 30mm で3 週間以上、含水率 10% 以下)
- 床下の換気を十分に取ってください。(建築基準法施工令:外壁の床下部に、壁長さ 5m 以下ごとに 300 cm以上の換気口設置)
- 多湿な場所への使用は床下の防湿処理を十分に行ってください。
- 根太は 45mm 角以上のブレナーがけした乾燥材を使用し、根太間隔は 303mm 以下としてください。
- フローリングは継ぎ目が根太の中央部に納まるように施工し、指定の接着剤とフローリング用スクリュー釘を併用して、根太に確実に止めてください。
- 広い面積の廊下などに施工される場合、十分にフローリングの伸びを考慮し、壁際部などに隙間を取ってください。

【傷や変質の要因と対策】

<傷>

- ・キャスター付きの椅子を使用する際は、カーペットまたは保護シートを敷いてください。
- ・ピアノやテレビ等の重量物を置かれる場合は、下地に十分な補強をし、フローリングとの接点には専用の受け具を使用してください。

<伸び縮み・変色>

- ・水をこぼしたり、濡れたりした場合には、ただちに乾いた布で乾拭きしてください。
- ・暖房器具や直射日光は、カーペット及びカーテンで遮ってください。
- ・置き敷きの電気式カーペットは、一般フロアには使用しないでください。
- ・床暖房用床材を施工された床では、床暖房システム稼働時に電気式カーペットを併用しないでください。

【日常のお手入れ】

定期的に市販ワックスでワックス掛けしてください。(ワックスはご使用の床材の塗装仕様に適したものをお選びください)軽微な擦り傷は目立たなくなります。一般家庭の場合は2～3ヶ月に1回、店舗や学校などの場合は1～2ヶ月に1回の割合でお手入れください。

なお、ご使用の場合は火気厳禁とし、換気をしながら作業してください。歩行度合いの激しい場所へのワックス掛けは、専門業者(床メンテナンス)に相談してください。

直貼工法の下地について

対応品番：PP907513、PP907515（P.41 に掲載）

<1>モルタル下地の場合

- ①モルタル配合比は、できるだけ硬塗り（セメント：砂：水＝1：2.5：0.5）して 30mm 程度の厚さに定規摺りし、金ゴテで3 回以上、不陸の無いようにしっかりと押さえます。特に部屋の隅は、ハネ上がりや落ち込みなどの無いように、巾木（壁）に直角に押さえます。
- ②モルタルの乾燥度は、含水率 10% 以下に乾燥しなければ施工しないでください。
- ③モルタル養生期間は、通常施工可能な目安として、モルタル層 30mm なら2 階以上で2 週間、1 階で3 週間、デッキプレートであれば5 週間以上を必要とします。
- ④特に厳冬期は、地域によるのはもちろん、同一現場でも条件によって差があるので、十分注意してください。
- ⑤凍結防止剤、または急結剤を使用する場合は、特約店またはメーカーに相談してください。
- ⑥モルタル埋設型床暖房を使用したモルタル下地の場合は、通常の養生期間（③参照）の後に2～3 日程度、床暖房の運転をした後、モルタル下地の温度が下がったのを確認してから施工してください。この時、モルタル表面にクラックなどが入った場合は、施工前に必ず補修をしておいてください。

<2>合板下地の場合

- ①根太工法の場合、根太間隔は 303mm 以内、根太の寸法は 45mm 角以上とし、下地用合板は厚み 12mm 以上の完全耐水用合板を使用し、接着剤と釘を併用して貼り上げ、接合部は目違いの無いように仕上げます。
- ②釘数は十分多く、150mm 間隔程度に打ち、タワミ、踏み鳴りの無いように仕上げます。
- ③目違いがある場合、グラインダーまたはサンダーで目地払いをします。

<3>改造工事の場合

- ①塩ビ系統、塗り床等の場合
古くなった P タイル等の上には施工できないので、床材、接着剤を完全に取り去り、モルタルの表面が出るまできれいに清掃した後、施工します。なお、古い床材や接着剤が取り去れない場合は、厚み 12mm 以上の完全耐水合板をモルタル釘およびエポキシ樹脂系接着剤、または一液ウレタン樹脂系接着剤を併用して下地を作り、施工します。
- ②フローリングボード及び 1 尺 x6 尺合板フロアの場合、大引き、根太の検査を行い、良否を確かめ、タワミの無い状態にして、サンダーで表面を平滑にし、厚み 5.5mm 以上の（できれば 12mm コンパネ）完全耐水合板を接着剤、釘併用で貼り上げた後に施工します。

<4>SL（セルフレベルング）材の下地の場合

- ①SL 材の表面強度が十分出ているか確認します。(SL 材表面にレイタンスが無いことを確認します)
- ②打設厚 10～15mm の場合、モルタル厚 30mm と同じ乾燥期間（3 週間以上）が必要です。

●施工道具及び補助材料

1. 下地処理用具

工具名	主な使用目的	備考
グラインダー	モルタル下地の凸凹調整	100V
ポータブルサンダー	合板下地の目違い調整	100V
ワイヤブラシ付ポリッシャー	モルタル下地の研磨	100V
ケレン	付着物除去	
タガネ・金槌		
掃除機	清掃	
ホウキ・チリ取り	〃	
ロール剛毛・ポリバケツ	プライマー処理	

2. 施工用具

工具名	主な使用目的	備考
丸鋸	製品のカット	100V
サッシャー	〃	100V
スケール (5m)	割付け (尺目付)	
墨つぼ	墨出し	
金櫛ペラ	接着剤の塗布	
三角ヤスリ	金櫛ペラの接着剤塗布量の調整	
ゴムハンマー	製品の圧着、調整	
コンパス	円型墨出し (パイプ等)	
ノミ		
金槌		
コードリール	電源を引く	
ポリバケツ、ウエス	清掃	

直貼工法 施工手順

【手順1】下地検査

モルタル下地の含水率を測定し、含水率が 10% 以下であり、施工可能か調べます。

【手順2】下地処理

①下地研磨

…モルタル表面に付着している異物を除去し、ワイヤーブラシ付ポリッシャーで、表面の残留セメントを取り除き、固いモルタル面が出るまで磨きます。

②清掃 …ホウキで大きなゴミ等を除去し、掃除機で小さな埃まで除去します。

③プライマー処理 …モルタル表面が一部でも弱く悪い場合は、プライマーで処理します。 **別途予算必要**

【手順3】基準線の出し方

①貼る方向の決定 …原則として、貼り方向はフローリングが長手の方向に流れるようにします。

②割付け・墨出し

…貼り始め部分と貼り納め部分が同じ幅になるように割付けし、墨を打ちます。特に入り口等、目につきやすい場所は、狭い幅のパネルが入らないように配慮します。円形部分等は実際に並べて、納まり具合を考えてください。

【手順4】施工

①清掃 …施工直前には、必ず掃除機、ホウキで下地表面を清掃します。

②貼り始め部分の幅決め・製品カット

…墨打ちした線に沿って製品を並べ、定規で巾木にならって寸法を出し、貼り始め部分の幅決めをした後に丸鋸でカットします。(図1)

③接着剤の塗布

…専用接着剤 PP ボンド（エポキシ樹脂系接着剤）またはウレタンボンド（一液ウレタン樹脂系接着剤）をお使いください。…PP ボンドは、主剤、硬化剤の二液型です。20kg セット（段ボール梱包）の場合、上下別々の缶に各 10kg 納まっています。その他の場合でも、必ず別に用意した攪拌容器に同量取り出し、よくかき混ぜ合わせます。

攪拌した接着剤は、1 時間くらいで初期硬化を始めます。作業量を見計らって攪拌するようにしてください。

…貼り始めより 450～600mm 分の幅に、櫛ペラで接着剤を塗布します。

塗布量はモルタル下地で 400～500g/㎡とします。なお、接着剤塗布の際、乾燥接着を起こさないよう注意します。

④貼り込み

…幅決め、カットした製品を巾木に沿って順次並べ、押さえ込みます。

…貼り始めの頭になるパネルを 100～800mm 程度の長さで作っておきます。

…あらかじめ用意したパネルから貼り始め、上段、下段のパネルと目が合わないようにし、最低 100mm 以上ずらすようにします。

…貼り込みは接着剤がなじむようゴムハンマーでしっかりと押さえ込み、隙間が出ないように注意します。

…貼り始めと納めの幅決めをしたパネルは、片方が次のパネルのサネと連結していないので、特に確実に押さえ込みます。

【手順5】完了チェック

●最終工程が完了したら、自主チェックを実施します。

・貼り忘れはないか ・巾木、下枠との取り合いは良いか ・目違いはないか ・傷はないか ・接着剤による汚れはないか

【手順6】養生

●貼り込み完了後、12 時間以内は立ち入り禁止とします。完了後に作業する場合は、ベニヤや養生シート等で養生してください。(注) 養生の際、養生テープは直接床に貼らないよう注意してください。市販の梱包用テープはもちろん、木質床専用のものであっても時間が経過したりすると、表面にテープが残ったり、塗装面を破損する可能性があります。

【手順7】検査

●すべての工程が終了したら現場監督立会いのもとで検査を受け、施工完了報告書に現場監督のサインを受領します。

3. 必要な補助材料

材料名	使用目的	必要量
●エポキシ樹脂系接着剤 PP ボンド	製品の接着 モルタル下地用 合板下地用	500～600g/㎡ (モルタル下地)
●一液ウレタン樹脂系接着剤 ウレタンボンド		400～500g/㎡ (合板下地)

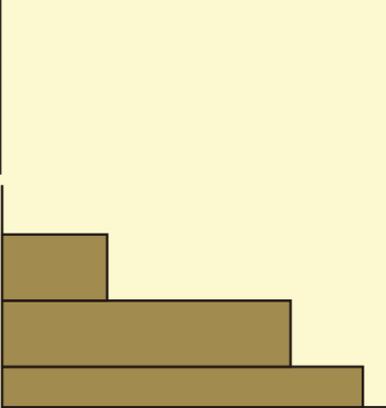


図 1：フローリング 貼り始め図